

国立大学法人等施設の長寿命化に向けた基本的な考え方の整理(概要)

国立大学法人等施設の長寿命化の取組やインフラ長寿命化計画(個別施設計画)の策定に資するよう、基本的な考え方を整理

施設の長寿命化の必要性

- ・施設の老朽化の進行
- ・法人としてのリスクの増大(機能面、経営面、安全面)
- ・厳しい財政状況

- ・膨大な施設を効果的・効率的に維持するため、長寿命化により既存施設を最大限活用することが必要
- ・既存施設の活用により、改築よりも廃棄物や二酸化炭素の排出量を削減し環境負荷を低減
- ・長寿命化により既存施設を活用しながら、歴史と伝統を継承するとともに、利用者の愛着を醸成

長寿命化に向けた施設マネジメントの取組

①施設の総量の最適化と重点的な整備(施設のトリアージ)

(保有施設の総量最適化)

- ・長期的に必要となる施設と将来的に不要となる施設の峻別

(施設整備や維持管理の範囲や内容等の重点化)

- ・重点的な投資により機能向上する施設、物理的な性能を維持する施設等に分類

②サステナブルな仕組の構築

(施設情報の把握・分析・活用)

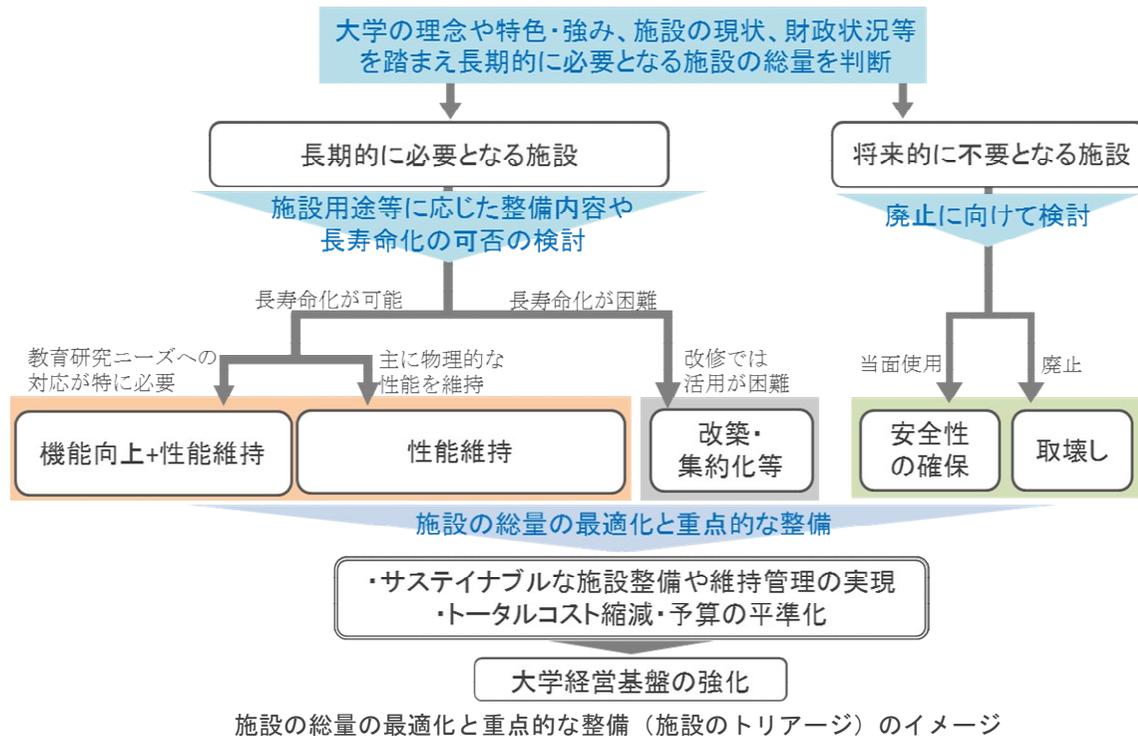
- ・施設の劣化状況やリスク、教育研究ニーズへの適応状況等をデータベース化し一元的に管理

(好循環システムの構築)

- ・施設の総量等に応じた多様な財源を確保

(実施体制の充実)

- ・専門知識を有した人材の確保、実施体制の充実



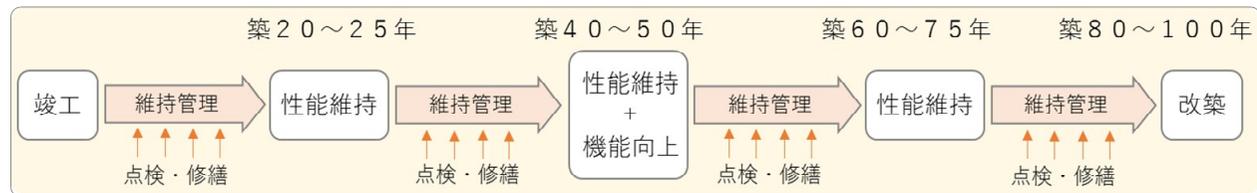
個別施設の長寿命化に向けた基本的なライフサイクル

(適切な維持管理)

- ・定期的に劣化状況やリスクを把握し修繕等を実施
- ・予防保全と事後保全等を整理

(計画的な施設整備)

- ・施設の耐用年数は100年程度(80~100年)を目標
- ・例えば20~25年程度の間隔で性能維持改修を実施



長寿命化に向けた施設の基本的なライフサイクルのイメージ

※性能維持改修の例: <20~25年、60~75年> 設備(空調等)・屋上防水・外壁の改修や更新等
<40~50年> 設備(空調・照明・給排水等)・屋上防水・外壁・建具の改修や更新、躯体の耐久性回復等

※機能向上改修: 上記以外に、教育研究ニーズ等を踏まえ適宜実施することが重要